

令和 6 年 6 月 7 日

うきは市議会議長 江藤 芳光 様

うきは市議会改革特別委員会

委員長 野鶴 修

うきは市議会改革特別委員会調査中間報告書

令和 4 年うきは市議会 6 月定例会において、全議員参加による議会改革特別委員会が設置され、委員会を統括する「全体会議」と、全体会議に向け、事前に課題等を調査・分析する「ワーキンググループ」に区分し、活動を行ってきた。

令和 5 年 3 月定例会で、当初の活動の目的である「うきは市議会基本条例」の一部改正を議決した。続いて令和 5 年 1 1 月より「議員定数及び議員報酬等に関するアンケート調査」として、市民を対象としたアンケート調査を実施した。そのアンケート調査の結果・分析について、うきは市議会委員会条例第 36 条により報告する。

記

1. アンケート調査実施期間

- ・令和 5 年 1 1 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日まで

2. 調査の方法

- ・市民との意見交換会におけるアンケート調査用紙への記入
- ・ホームページ、SNS を活用しての投稿

3. アンケート調査の結果

- ・回答者数 約 500 名
(～調査の回答結果については、別紙のとおり～)

(回答者分析)

- ・今回のアンケート調査における地域性については、各校区からまんべんなく回答をいただいております。一定程度うきは市全体の意見が反映されていると思う。
- ・男女比については、男性 305 人、女性 184 人となっており、意見交換会等でのアンケート調査を行った関係もあり、男性の回答がやや多くなっている。
このことは、意見交換会等への出席が、男性が中心であり女性の参加が少ないという結果でもある。
- ・年代別を見てみると、60 代・70 代で 267 人と過半数を超えている。年代が 50 代、40 代、30 代と若くなるほど、アンケート等への回答も少なくなっている。この結果からも、政治への関心度、選挙の投票率等が反映されているのではないかとと言える。

（議員定数分析）

- ・議員定数については、減らす若干多いものの、現状維持の数字とほぼ変わらない。また、現状維持と増やすを合わせると、減らすとまったくの同数になっている。これらのことから、議員定数については、減らすのか現状維持なのかに大きく2分される点である。
- ・減らす意見としては、10人が一番多く、次いで12人という意見であった。ただ、全体的には現状維持が特に多かった。

（議員報酬）

- ・議員報酬についても、一番多かった回答は現状維持で約半数の人が回答している。2番目としては増やすという回答で、4分の1ほどの人は増やす意見であった。
- ・議員報酬を決定する要素としては、1番目に「うきは市の財政状況や生活水準を考えて決定する」意見が193人と多かった。2番目の「若者や子育て世代が立候補しやすい金額等を考慮して決定する」意見と、3番目の「誰もが立候補しやすいように考えて決定する」の2番目と3番目について、同様の考え方にとらえれば、合わせて223人となり1番目の意見を上回る結果となっている。
- ・議員報酬については、約半数以上の人が現状維持であるが、その他若者や子育て世代が立候補しやすい金額としては40万円が多く、一部では50万円という金額も回答されたのが特徴的と言える。

（政務活動費）

- ・この政務活動費については、政務活動費そのものの使用基準が理解されていないことが多く、現状維持の回答が約半数を占めているが、その多くは「何に使われているかわからない。」という内容が多かった。
- ・政務活動費については、マスコミ等で報道される印象が強く、本当の意味での政務活動費のあり方を知らない市民が多く見受けられた。このことに関しては、議会としても何らかの広報が重要であると反省するところである。

（その他）

- ・議員の議決以外の職務については、別紙のとおりとなっている。
- ・若者や女性が立候補しやすい土台づくりについては、様々な回答が寄せられた。その中で、特徴的に多かったのは、1番に経済的支援（議員報酬、選挙費用）が上げられている。次いで2番目としては、議員の定年・退職制度（年齢や当選回数）を設けるという回答であった。また、SNSでの議員活動発信や定数に年齢・性別割りや自由枠を作る（規定得票数を設ける）などの回答も複数出されていた。
- ・議会活動への意見については、議員への苦言を含め、いろいろな回答が寄せられたが、その中には行政に対する意見も多数出されていたと感じる。（詳細は別紙のとおり）

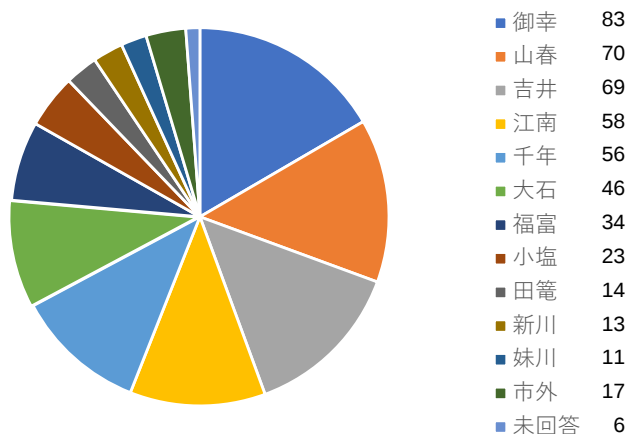
以上アンケート調査の結果・分析について報告する。

議会改革特別委員会としては、今回のアンケート調査結果を十分に尊重するとともに、今後他の自治体との意見交換や情報交換、また市民との意見交換会等を交えながら、令和7年6月定例会に向けて、議員定数及び議員報酬等について調査・検討を行い、最終結論を報告する。

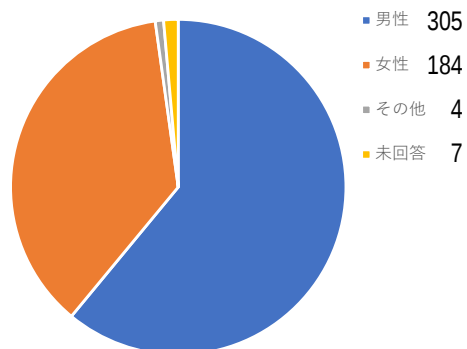
議員定数、議員報酬等に関するアンケート 分析まとめ

2024.5.30

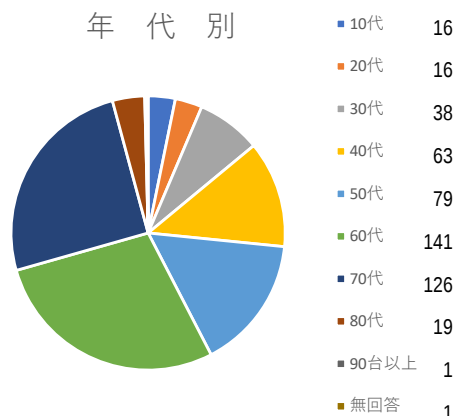
地域ごとの回答者数 総数500



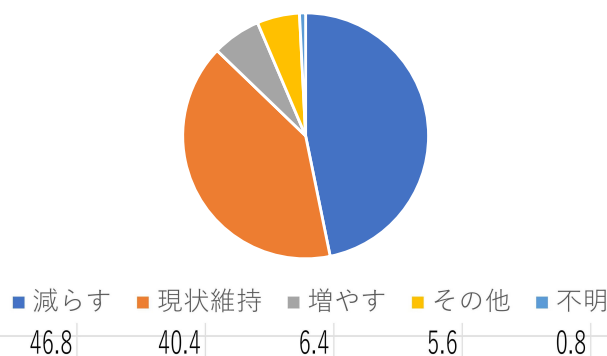
男 女 別



年 代 別



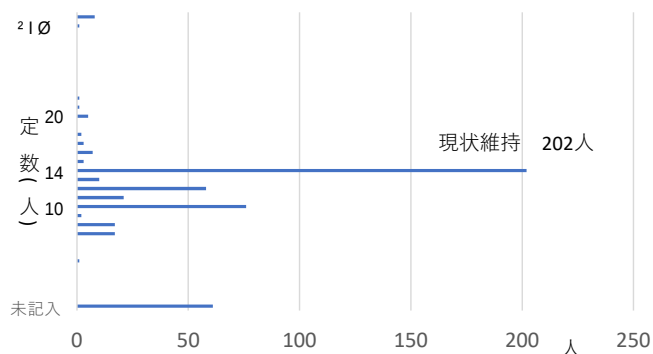
議員定数



年代別分析は別紙

男女別分析は大差ないため省略

定 数 案



定数増を望む理由

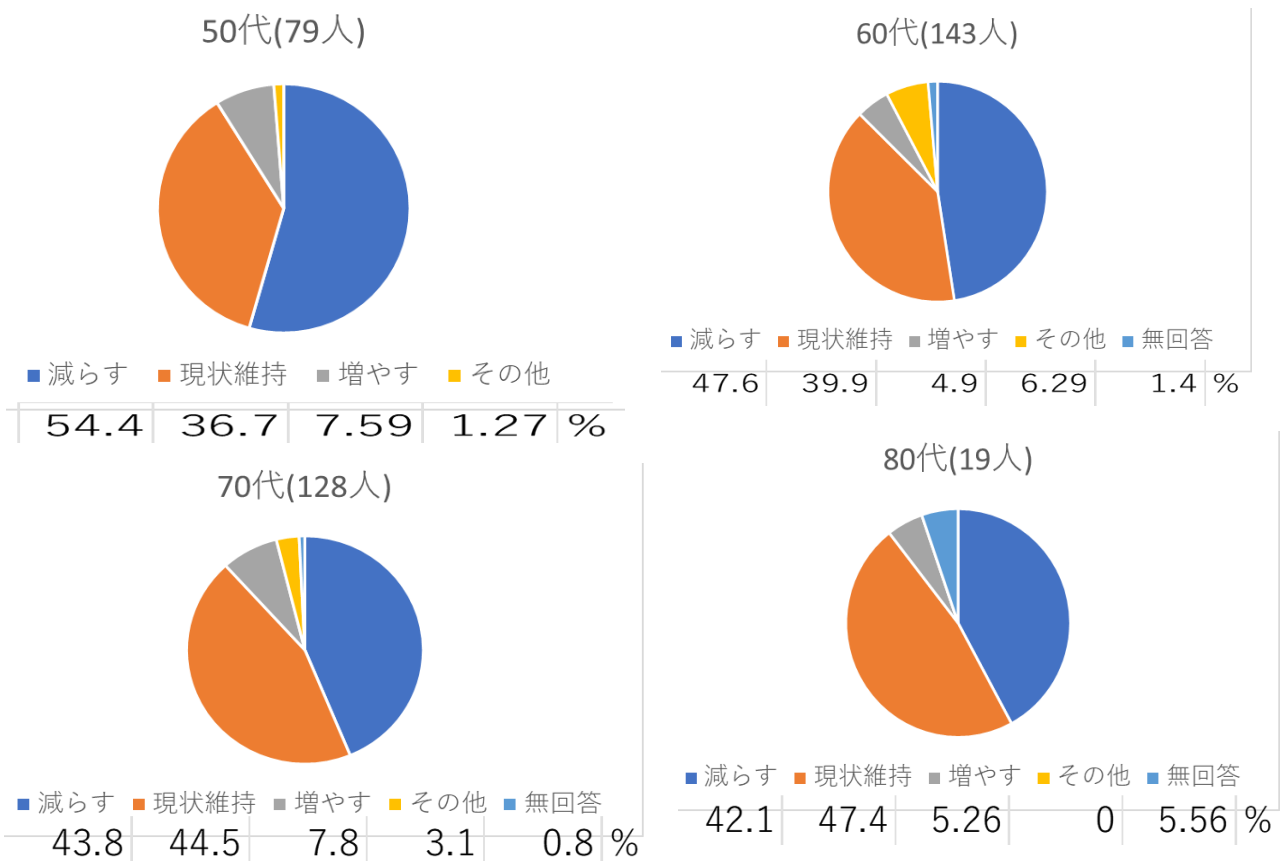
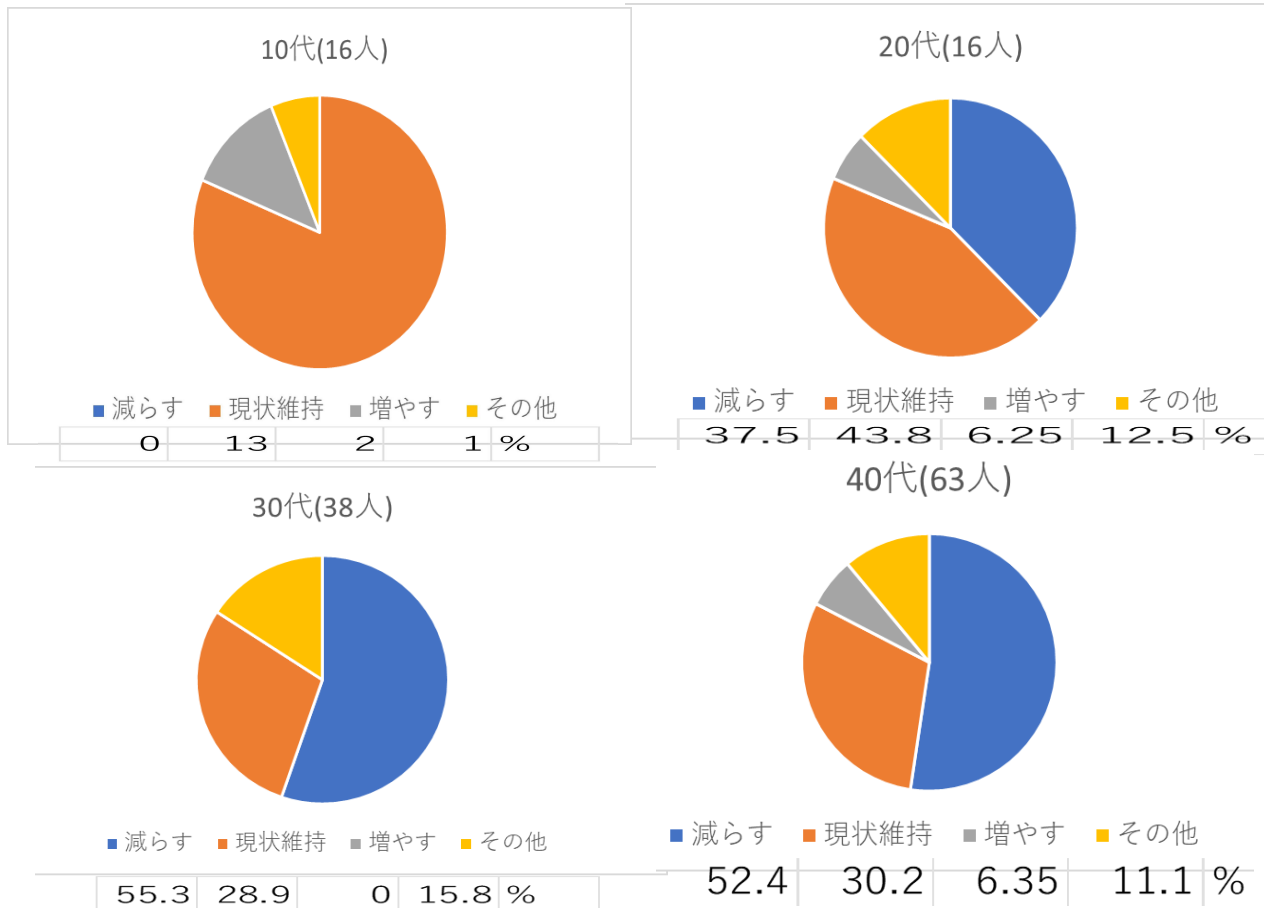
- | | |
|-------------------------|----|
| ①議員は市民を代表する立場なので、一定数が必要 | 23 |
| ②定数減は質疑が減り議会の役割が果たせない | 12 |
| ③定数が減ると、民意が行政に伝わりにくくなる | 8 |
| ④その他 | 1 |

現状維持で良い理由

規模に合っている、特に問題ない、減らすと民意が届きにくい

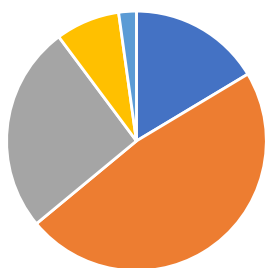
定数減を望む理由

- | | |
|--|-----|
| ①経費削減分を報酬に回し、若者の議会挑戦しやすくす | 133 |
| ②経費削減できる | 117 |
| ③その他（質疑していない議員がいる、小学校区ごとに1人で良い、人口が減っているから、少数精鋭を望 | 41 |
| ④話がまとまりやすく反対が少なくなり、進行しやすい | 25 |



90代以上(1名)と無回答(1名)は現状維持(1)と増やす(1)

議 員 報 酬



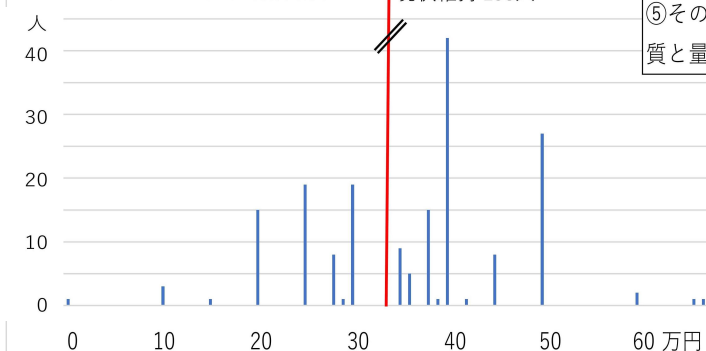
■ 減らす ■ 現状維持 ■ 増やす ■ その他 ■ 無回答
16.4 47.6 25.8 8 2.2 %

年代別分析は別紙

男女別分析は大差ないため省略

望ましく思う報酬額

現状維持 238人

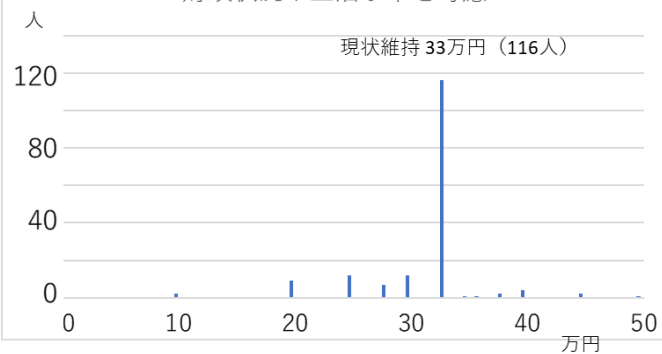


報酬決定で重視すること	人数
①うきは市の財政状況や生活水準を考慮して決定する。	193
②若者や子育て世代が立候補しやすい金額等を考慮して決定する。	154
③誰もが立候補しやすいように考えて決定する。	69
④他の自治体との比較で考えて決定する。	36
⑤その他（根性、ふるさと愛、費用対効果、仕事内容の公開、質と量、査定など）	21

①～④については、次のページに具体的な金額分布を示しました。

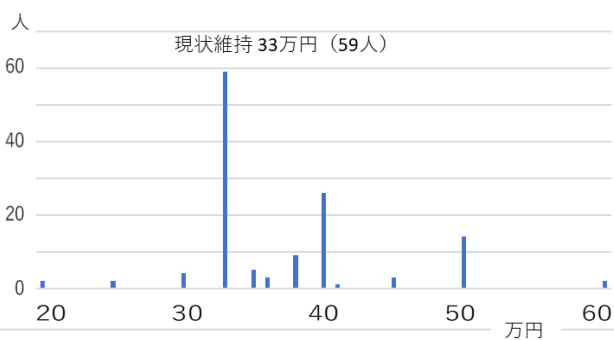
財政状況や生活水準を考慮

現状維持 33万円 (116人)



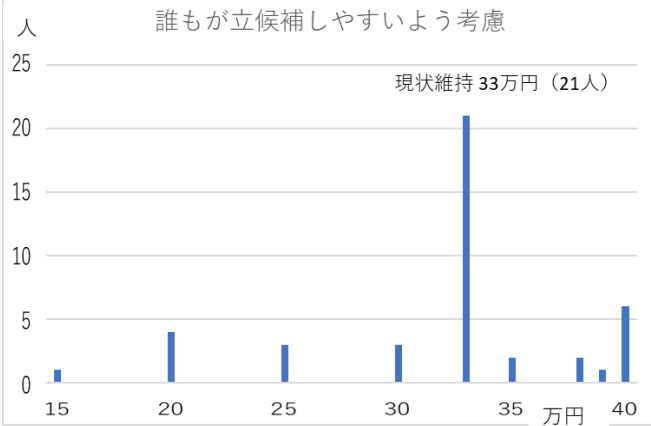
若者・子育て世代の立候補しやすさを考慮

現状維持 33万円 (59人)

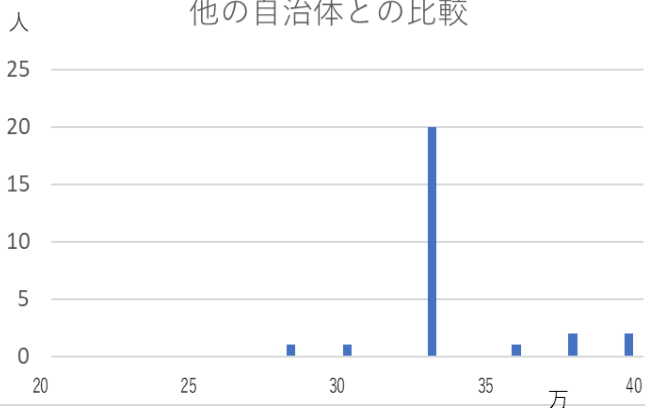


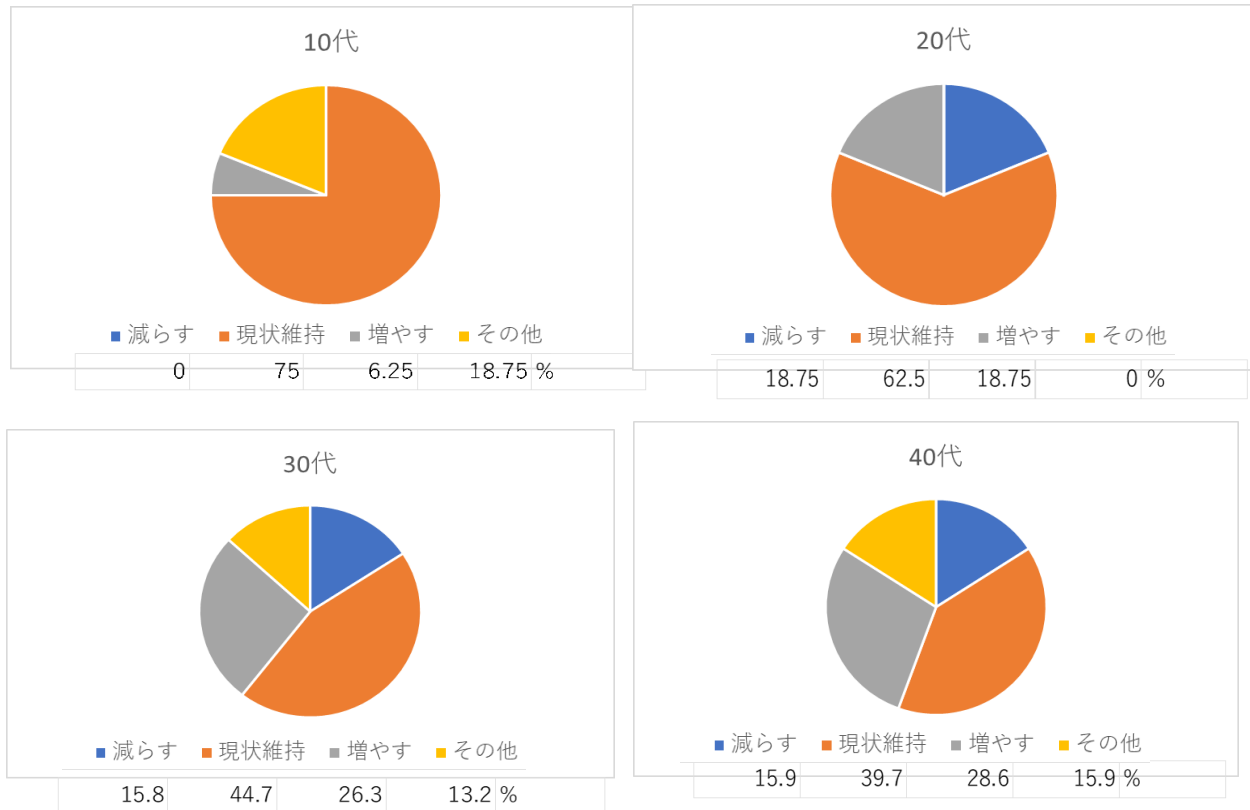
誰もが立候補しやすいよう考慮

現状維持 33万円 (21人)

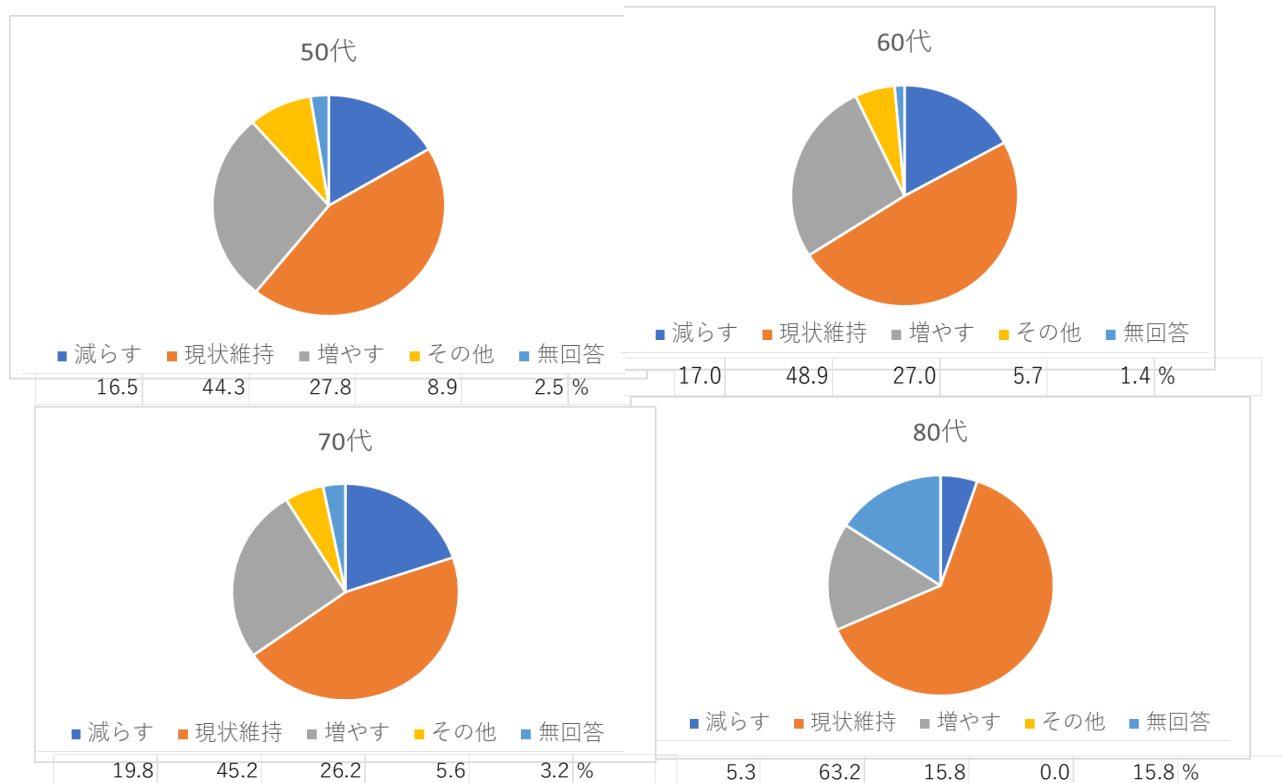


他の自治体との比較

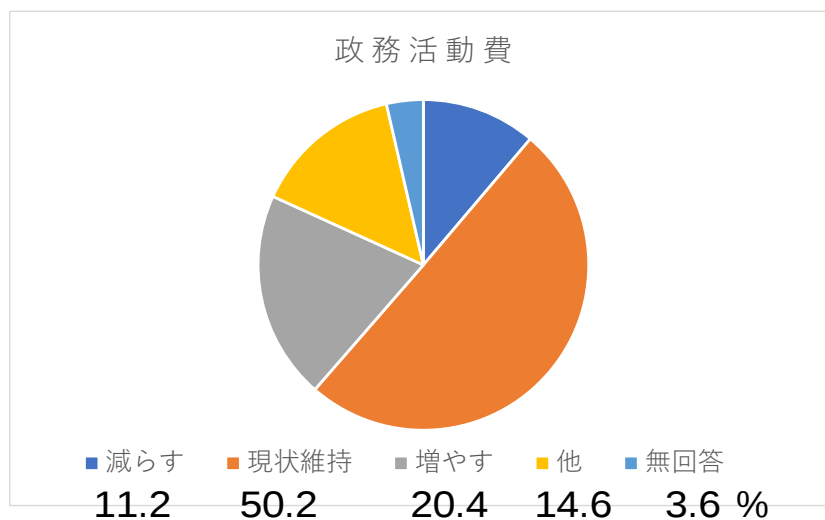




報酬について



90代以上(1名)、年齢不明(1名)のご意見は、「現状維持」が1名、「増やす」が1名



年代別・男女別分析は大差ないため省略

その他欄への記入

何位に使われているのか分からない、
未使用分は返却、
議会だよりで説明して、
青天井にして良いが1円単位で広報する、
定数・報酬とセットで考える、
予算主義で使い道を管理する

使い方次第で変動、
私用に使うな、
見える化しては、
分からない
内容を審査、
(政務活動費は)不要、

議員の職務(議決以外)

項 目	件数
①市民の意見を吸収し、市政に反映させること。	326
②地域をこまめに周り、行政への苦情や要望等を聞くこと。	203
③将来ビジョンを議論すること。	195
④政策提言や政策提案を積極的に行うこと	186
⑤行政（市政）に対するチェック機能（予算・決算等）を高めること。	181
⑥行政の無駄を省くこと	131
⑦議会情報や行政情報を広く知らせること。	100
⑧その他（議員自身の無駄排除、指摘・批判以外に提案、議員活動の発信、庶民意見の反映、市議同士の団結、補助金を受けている団体の監査、活動報告の義務化、	12

若者や女性が立候補しやすい土台づくりについて

経済的支援(議員報酬・選挙費用など) 49件

イメージをよくする工夫
 議員の前向きな姿をみせる
 こまめに住民意見を聞く
 条例で、若手や女性が一定数を占めるようにする
 政治教育(小学生から)、若者・女性議員モデル発信
 在職立候補支援制度、休暇制度
 若者との積極的な交流
 若者の投票率向上策
 ジェンダーギャップの解消
 女性が家事育児や介護に縛られない仕組み作り
 若者向け政治セミナー
 若手と女性議員が良いモデルとなって範を示す
定年(年齢、当選回数)退職制度 24件

女性議員(次の選挙で現職が減ることが分かる
 年配者からの圧力除去
 若者・女性の代弁者となる議員を増やす

SNSでの議員活動発信 18件

女性議員への家事育児介護支援
 選挙カー・街頭演説廃止(経費、時間、応援者出務)
 新しいことを積極的に取り入れる姿勢
 政治参加の啓発事業
 現状で良い
 リクルートする
 女性自身の意識改革
 しがらみのない「公正でクリーンな」選挙
 市長の若返りも議員に影響するのでは
 対話集会を増やす

他の自治体のリサーチ

定数に年齢性別割りや自由枠を作る(規定得票数を設ける) 13件

議員間のパワハラ
 議員のための議会託児
 地盤選挙はいや
 議員の日常の紹介
 夜間や休日の議会開催
 (女性の)家族の理解
 過去の議員から話を聞く
 議員が若者のことをもっと学んで
 機会を作って若者の意見を聞く
 供託金を下げる(支援する)
 会社に勤めながら議員の仕事もできる制度
 政治、投票と、生活の関わりを学ばせる
 動画でもっと発信を
 課題抽出、解決に向けたイベント・パーティー企画
 若者・女性向けの補助制度
 注目が集まる議会を(例：安芸高田)
 20代立候補者に優遇策を
 議会・議員が地域に変革をもたらした例を広報
 若者・女性ではなく「能力ある人」の立候補しやすい土台作りを
 意見交換の場(一般市民に開催情報が届いていない)
 そもそも若者が暮らしていけるまちづくりが必要
 若者・女性の参加だけでなく、彼らの意見の酌み取りが大事
 (若者・女性不足の)課題の明確化
 インターネット会議の活用(出務を減らす)
 若者の立候補増より、投票率アップが大事
 退職金の支払い
 若者議会、女性議会の開催

議会(議員)活動への意見

要点まとめ

分からないことはもっと勉強して

もっと身近な存在になって 7+

年度目標を掲げ、年度終わりに結果発表を
個人の信念で活動。方向が間違っている人

活動の見える化、広報や活動報告の強化 30+
批判よりも協力を

YouTube配信 8 ***知らない人が多い**

若者、移住してくる人向けの施策を

議会だよりにより一般質問以外の議員活動も

一般質問する議員が限られている

若手の登場で、活動が見えるようになった

開けた議会活動に期待する

それぞれの議員の問題意識が気になる

子どもたちが住み続けたいと思えるように 9

男尊女卑は永遠の課題

子ども目線でのまちづくりを

人権の分からない議員がいる

若者は公報を読まない

選挙のためだけの行動になっていないか

文章読解が苦手でも分かるような発信を

低所得家庭へ寄り添いを

子育て世代の議員の登場に希望が持てる

市議と直接話せる機会が欲しい

中学校の制服変更に課題あり

以前の服が良かった、お下がりが無い…

非課税ではない多子世帯にも給付を

興味が持てない

動画はテーマ別に編集などして欲しい

市民の意見を受ける箱が知られていない

HPだけではだめ

意見交換の出席者が少なすぎ

議員の影が薄い

市民の意見をもっと聞いて

支持母体のためだけでなく広く働いて

議会に興味をわくような活動を

一般質問に無駄が多い

今後も意見交換会を 13

無関心層へのアプローチはどうするか

意見交換会は効率が悪かった

現役世代のための議論も欲しい

市政が身近なものに見える伝え方を

行政と一体となり状況を打開して

ネット(YouTube)で議員の活動報告を

前向きな質問をしない議員が残念

全体を見て、中長期戦略に基づく活動を

他市のまねをやめ独自の政策を

アンケートより対話で意見を集めて

情報公開を進めて

市民の意見を本会議や委員会でも聞いて

議員はやりたいことのアピールを

市在住県議が不在、要望とりまとめを

上水道は人口減少で破綻する。やめて

投票所に候補者の政見表示を

紙の議会だより不要、SNSで十分

100年先のビジョンから中期計画を

地元との意見交換を毎月して欲しい

行政を動かす力を見せて

チェック機能のさらなる充実を

先進地の良いところを取り入れて

今のままの議会には期待できない

過疎化防止、人口減抑制策を

少子化対策

公共交通対策

意見や要望には必ず回答を

市民相談日を作って

市民による議員活動の評価をしては

ネット経由の意見を取り入れる体制づくり

市長も任期中に自治協廻りで市民と対話を